東北大学大学院情報科学研究科
「シンポジウム開催支援」報告

タイトル	第4回知能型高齢者・障害者対応福祉機器開発技術に関する合同シンポジウム
主催者	パートナーロボット大会実行委員会 代表：中野栄二
期日	2003年10月17日～18日
会場	夢メッセみやぎ
出席者数	2日間合計 約 500人
講師・パネリスト等の氏名・勤務先等	氏名 中野栄二（東北大学） 藤記拓也（横浜市総合リハビリテーションセンター） 渡邊善夫（東北経済産業局） 松田伸慶（宮城県産業技術総合センター） 高橋幸子（（財）仙台市健康福祉事業団）
目的	本シンポジウムは、宮城県及び仙台市と合同で開催する「パートナーロボット大会 2003」と同時進行的に開催されるもので、新しい知能型福祉機器をメインモチーフに、広く知能型のヒューマンコミュニケーションや人間支援の技術提案と提示に関して多方面の分野の専門家、ユーザー及び研究者が一同に介して討議や情報交換を行う場として設定されたもので、本シンポジウムにより社会的ニーズがたいへん高いこの分野の知識や技術を共有・蓄積し、革新的な技術の獲得へ向けた基盤をかためることを目的としている。
内容	福祉をモチーフとして現在ある優れた技術と豊かなアイデアで、人間とロボットの望ましい関係を目に見える形で示せるよう、競技会形式でそれぞれのロボット・アイデアを発表し、それについて自由にディスカッションをする。
情報科学研究科にとっての意義・貢献度	知能型福祉介護機器は技術の側面から見ると、ITを用いた情報技術と介護者、被介護者などの人間との間の情報のやりとりである。パートナーロボット大会の目的及び成果の多くも、つまるところ上記の人々による福祉介護分野の高度情報技術に関する情報交換の場を提供することであり、本大会は、この分野における情報科学の重要性を社会に広く認識させるのに多大の貢献をなした。